

令和3年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和4年2月14日（月）午前10時～
Web 会議システム（Zoom）により開催

1 開会

事務局より、配布資料の確認
会長より、第3回議事録の承認

2 議題

(1) まちづくり賞の推薦について

事務局より、まちづくり賞概要について説明

○町部総代会長より、まちづくり賞候補者としてなごみ会の推薦があり、選考の結果、候補者として決定された。

- ・ごりやく市や青少年健全育成を兼ねた盆踊り等でお店を出していただいております。お世話になっている団体であるが、担い手が減っていると聞いている。
- ・道路はコミュニティを作っていく視点でも大事な場所だと思うが、女性の視点からバリアフリー化も考慮した取組みを行っている。また、特徴として、だんごの売上げを光触媒の造花やロープを買う等の活動に活用しており、また、ボランティアを受け入れやすい環境づくりを行い、地域を巻き込んで一緒にやっている。
- ・長く続いている女性中心の活動であり、コツコツと続けている。
- ・なごみ会さんの表彰は賛成だが、まちづくり賞が、協働のまちづくりについての市民意識の高揚を図ることを目的として表彰するものであることを考えると、長く活動をしている人や団体ばかりでなく、活動を始めた早い段階、盛り上がっている段階でスポットを当てられるとよい。また、授賞できる団体等が複数あってもよいのかなと思う。
- ・これからの団体や継続中の団体へどうスポットを当てていくかについても指針に盛り込めるとよい。
- ・なごみ会は商店街の女将さん会が地域を巻き込んで活動をしているが、旅館の女将さん会なども推薦できるか。
→他の表彰を受けていなければ可
- ・これまでの積み重ねを表彰することもあるが、年数等にこだわらず活動を伸ばしていけるような視点で考えることも必要ではないかと感じた。

(2) 助成金事業について

事務局より、令和4年度の応募状況、令和3年度助成金事業実績報告会の日程、新たな助成金枠の創設について説明

○新たな助成金枠の創設について

- ・現市民企画公募助成金では継続性が求められるが、新設する助成金では継続性は求めないということによいか。

→将来の担い手育成のため、若者世代のやってみようという活動を支援するもの。

- ・市民活動に対する助成金だけでなく、行政や企業と連携した事業も必要となっており、既存の制度も含め助成金の枠組みを再検討する必要があるのではないか。
- ・支援とはどういうことなのか、また、チャレンジするのは若者だけではないので、どういった主旨で助成金を新設するのか。
- ・助成金の上限額が中途半端ではないか、またプレゼン等からもハードルが高いように感じる。
- ・年齢の枠について、若者の実体験を与えられるものであり、ある程度ターゲットを絞ることは良いと思う。自分たちが提案したものが具現化できる機会となることや、多世代での活動に対する助成等発展の可能性も考えられる。
- ・3名以上で部やクラブでのチャレンジもできるのであれば色々なことができそう。
- ・はじめの一步部門は回数制限があり、ステップアップ部門は金額が大きく躊躇しがちである。団体構成員の過半数が若者であればチャレンジできるので、利用しやすいのではないかと。
- ・過半数を若者とすることで、上の世代と一緒に活動するきっかけにもなる。
- ・助成金の見直しは考えていかなければならない。現制度は継続性がネックになっていると感じている。若い世代の掘り起こしは今後の課題であるが、学校の授業的な活動では、まちづくり活動との境界線や資金の出処等の問題もあり、整理が必要だと感じている。
- ・ハード事業やシティーセールスにおける官民連携の動きもあり、そういった視点からも整理していく必要があるのではないかと。
- ・まちづくり、ボランティア、市民活動ということに捉われずにやっていることに対し、どういった言葉が適切なのか、どういった応援の仕方があるのか等、仕組みを含めて考えていくことも必要になっている。
- ・制度についても常に改善していけるよう柔軟に検討しブラッシュアップしていくことが求められる。
- ・制度の周知について、学校やボランティア部等へ働きかけをするだけでなく、若者世代に届く方法等、若者と一緒に考え、最適な方法で行ってほしい。

(3) 協働モデル事業について

事務局より、令和3年度協働モデル事業の報告及び令和4年度協働モデル事業案について説明

○令和4年度協働モデル事業案「多文化共生の地域づくり事業」「持続可能な若者議会のための体制づくり」「持続可能な地域猫活動のための体制づくり」について

- ・若者議会については、官民連携で若者施策をやっていくことはもちろん、人材育成についても官民連携でロードマップを描くことで活動の継続

につながっていくのではないかと考えている。

- ・地域猫活動については、総合的な視点で行政と連携して取り組んでいくことが必要だと思うので、町内会との連携ができるよう検討しながら継続してもらいたい。
- ・モデル事業は単年度で終わらせるものではなく、何年で市民にバトンタッチするのかというビジョンを描いて取り組むことが必要ではないか。
- ・地域、市民で担える部分と行政の施策として担う部分、また、連携して取り組む部分の検討が必要となるが、自立に向けたロードマップ等を明示して進めていくことが大事となる。
- ・市民、行政、企業等多様な主体者が一緒にやるための役割分担を一緒に考えるプロセスが必要となる。
- ・ニーズを掘り起こすだけでなく、誰がどのように担うのかといった体制づくりが求められている。
- ・各セクションがやるべきことを一緒にやっていく方法を考え、きちんと役割分担できるようにブラッシュアップしていけるとよい。

(4) 協働まちづくり指針策定ワーキングについて 事務局より、ワーキングの進捗状況について報告

- ・子育て世代の声を聴きたいと思っているが、聴ける場やつながる方法があるとよい。
- ・コンシェルジュへのつながりなど、話を聞くだけでなく、声を取り上げてつなげられる仕組みがあるとよい。
- ・コンシェルジュについて、まちづくりセンターや子育てコンシェルジュとの違いが分かりにくいのではないかと。また、多世代への対応も求められている。
- ・長年ボランティアとして活動している人が地域の中でもっと活躍できるとよい。コンシェルジュに近い役割を果たしているケースもあり、地域にもっとボランティアが認識され、活躍できる取組みも必要ではないかと感じている。
- ・手法ばかりでなく、もっと上の視点からまちづくりの課題を検討してほしい。
→協働はまちづくりの手法であり、ワーキングでは協働という手法に対する課題と解決策をまとめていく作業を進めている。
- ・協働の定義から考えた方がよいのではないかと。また解決策の提案もこれまでやってきたことではないかと感じるため、あるべき姿からバックキャストで検討することも必要ではないかと感じた。
- ・まちのキーパーソンを増やしていくことが必要だと感じている。

3 その他

次回開催時期について

令和4年度第1回は令和4年5月頃の開催を予定